

## 臓器移植者から

No. 19

拝啓

はじめまして

暑い日が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。

私はもうすぐ1年目の腎生検を受ける予定です。

ここまで何もなく無事にすごせたことを日々感謝しております。

私は20代で結婚し、初めての妊娠と同時に慢性腎炎と診断されました。

医師からは「本当なら産まない方がいい」と言われましたが、どうしても子供が欲しくて出産しました。そしてあっという間に透析になりました。

主人は仕事で忙しく、頼る人もいない子育て、透析もシャントと呼ばれる血管の手術をするのですが、何度作ってもトラブルになり、両腕は傷だらけで、もう手術する場所がありません。体はいつも重く顔はどす黒く、食事や水分制限も非常に厳しいものでした。家族にも社会にも迷惑ばかりかけ、だんだん生きる気力さえ無くなっていきました。健康な人に嫉妬し、親を恨み、何より自分が嫌いでした。そんな出口の無い暗いトンネルを歩いているような十数年に、突然光が射しました。

普通の食事が食べられる、水分が飲める、汗が出る、おしっこが出る！人には当たり前のことが毎日驚きでした。

一番は一週間に3日、5時間の透析のために、台風や大雪、父が亡くなっても通った病院に行かなくていいなんて、感謝の毎日です。と同時に、かけがえのない大切な命を受ける重みと責任、御家族のお気持ち・・・今でも複雑な想いです。

今の健康は私が治ったわけではなく、一人の尊い命によって生かされている。

このことを絶対忘れません。無茶をせず、ずっと大事にさせていただきます。

これからは少しずつですが、社会の役に立てればよいなと思っています。そして今まで出来なかった3日以上の旅に家族と行きたいと思っています。

星が大好きなので、いつか満天の星を見に行きたいです。

皆様のご健康を心よりお祈りしております。

そしてドナー様の御霊がどうか安らかでありますように。

敬具